

都市とそこに生きた

民衆、武士、悪党、女性、

そしてキリスト教徒の姿を再検討し、

これまでの理解とは異なつた

中世の社会を甦らせる。

前著『中世都市共同体の研究』に続く

中世史研究の集大成。

第一部 中世都市論—大山崎と堺を中心に—

第一章 都市・大山崎の歴史的位置

都市・大山崎の学説史と問題点／港湾都市・大山崎についての諸問題／大山崎・京都・淀／中世都市から近世都市への変容

第二章 都市・大山崎と散所

散所についての研究史と問題点／撰閑家・山崎散所と長者衆／三浦家文書と宿長吏

第三章 中世都市の保について

学説史と問題点／宇治の番保について／祇園社・松尾社の祭礼神事役と大政所保および北野社・西京七保／八幡宮・大山崎神人と上下十一保

第四章 堺荘と西園寺家

西園寺家とその所領／南北朝時代における摂津国堺荘の支配関係

第二部 畿内近国の荘園と武士団

第一章 中世畿内における武士の存在形態—摂津渡辺党と河内水走氏、山城榎島氏・狛氏—

武士論の問題点／「中世における畿内の位置」と渡辺党／河内国水走氏と供御人の存在形態／山城榎島惣官と山城国人狛氏

小西瑞恵 著 日本中世の民衆・都市・農村

第二章 悪党楠木正成のネットワーク

得宗被官楠木正成／正成が根拠地とした荘園／楠木正成と平野将監

第三章 東大寺領播磨国大部荘についての一考察

大部荘の開発と支配地域について／荘園領主東大寺の支配の変遷／大部荘の悪党について／大部荘と水上交通

第三部 都市と女性・キリスト教

第一章 「鉢かづき」と販女—女性史からみた御伽草子—

日本中世史からみた御伽草子／「鉢かづき」の物語と由来／「鉢かづき」物語の誕生

第二章 中世都市の女性とジェンダー

職人歌合にみえる都市の女性／中世ヨーロッパの女性職人・商人／女性の社会的地位の変化について

第三章 一六世紀の都市におけるキリシタン女性—日比屋モニカと細川ガラシャ—

堺と日比屋モニカ／大坂と細川ガラシャ／女性史からみたガラシャとモニカ

第四章 埋もれた十字架—天正遣欧使節と黄金の十字架—

黄金の十字架の発見／栖雲寺蔵「伝虚空蔵菩薩画像」と有馬春信／島原の乱と黄金の十字架

▼A5判・四一八頁
定価：本体 八、五〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1880-6

【二〇一七年二月刊行】

ここにし・みずえ
一九四二年三重県生。一九六七年京都大学文学部文学研究科修士過程修了（国史学専攻）、博士（文学）。昭和薬科大学助手・講師を経て一九八〇～二〇一三年まで大阪樟蔭女子大学学芸学部講師・助教授・教授。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	日本中世の民衆・都市・農村	本体8,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1880-6	
お名前			tel	本書HPのQRコード	
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

※中世都市共同体の研究

小西瑞恵著 思文閣史学叢書
陸路水路の要衝大山崎を分析し、国家権力と密接な関係をもつ商業的共同体という観点から論じた大山崎研究をはじめ、古代からの港湾都市である堺都市論、自治都市としての成立過程と内部構造について公界と会合に着目し新たな都市像を示した大湊研究、さらに戦後の中世史を代表する都市論への見解をあきらかにした論考を収める。
▶A5判・340頁／本体6,400円 ISBN4-7842-1026-1

※京都の都市共同体と権力

仁木宏著 思文閣史学叢書
中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容のなかから町(ちょう)の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明らかにする。中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的、理論的に分析した一書。
▶A5判・332頁／本体6,300円 ISBN978-4-7842-1518-8

中世畿内における都市の発達

永島福太郎著 オンデマンド版
中世史の本舞台である畿内における中世都市の発達の姿を明らかにした永島史学の本領が発揮された一書。旧制学位請求論文で、若干の補正を加え、ここに上梓する。(初版2004年)
【内容】第一篇 荘園領主都市／第二篇 都市要素の成長／第三篇「惣」町の成立／第四篇 封建都市化／付篇 石山本願寺と大坂
▶A5判・338頁／本体6,800円 ISBN978-4-7842-7028-6

中世京都の民衆と社会 オンデマンド版

河内将芳著
従来のもてら論・社会集団論の視角を受けつつも、各社会集団の人的結合の側面を重視し、それらが実際にいかに都市民衆の上に出し交差したのか、その歴史的展開を具体的に検討していく。(初版2000年)
【内容】第一部 職縁と流通／第二部 信仰と宗教／第三部 地縁と町
▶A5判・414頁／本体8,800円 ISBN978-4-7842-7003-3

中世寺院社会と民衆 衆徒と馬借・神人・河原者

下坂守著
山門の喧訴の検討から、山門の「惣寺」がどのような組織と機能をもつものであったかを明らかにしたうえで、足利義満以降の武家政権との関係や、近江坂本の在り地人と日吉社の大津神人が山門の活動にどのような影響を与えたかを論じ、さらには、中世都市京都の変容についても、絵画史料を駆使して明らかにする。
▶A5判・432頁／本体7,500円 ISBN978-4-7842-1779-3

在京大名細川京兆家の政治史的研究

浜口誠至著
戦国期に室町幕府の政策決定に参画した大名を「在京大名」と規定し、その中でも代表的な存在である細川京兆家の政治的位置を明らかにすることで、戦国期幕府政治の構造的性質を解明する。幕府儀礼・奉公人奉書による裁許の補完と幕政代行等を検討し、制度史中心の幕府政治史を相対化する試み。
▶A5判・328頁／本体6,500円 ISBN978-4-7842-1732-8

※瀬戸内海地域社会と織田権力

橋詰茂著 思文閣史学叢書
特産物の塩、周辺物資の海上輸送、在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を明かす。
【内容】第一編 瀬戸内海社会の形成と展開／第二編 瀬戸内海社会の発展と地域権力／第三編 地域権力と織田権力の抗争
▶A5判・396頁／本体7,200円 ISBN978-4-7842-1333-7

※戦国大名の外交と都市・流通 豊後大友氏と東アジア世界

鹿毛敏夫著 思文閣史学叢書
西日本の戦国大名のアジア外交の実態とそこに潜む意識構造について解明するとともに、政治・経済・文化的にアジア諸国と緊密な関係にあった西国大名による都市・流通政策の実態を明かす。
【内容】第一部 中世都市の構造と特質／第二部 大名権力の流通政策／第三部 大名権力の対外交渉
▶A5判・300頁／本体5,500円 ISBN4-7842-1286-8

守護所・戦国城下町の構造と社会

石井伸夫・仁木宏編 阿波国勝瑞
阿波国は、中世後期から近世にかけて、権力主体が変遷したにもかかわらず、ずっと一國単位で歴史が変遷する。その中心は勝瑞から徳島へ引きつがれた。これを「阿波モデル」として全国の城下町研究に提示する。ユニークな空間構造をもつ一六世紀の地方都市・勝瑞の姿を、考古学、歴史学、地理学など多角的に明らかにする。
▶A5判・362頁／本体6,600円 ISBN978-4-7842-1884-4

中世民衆生活史の研究 オンデマンド版

三浦圭一著
渡辺惣官職、農業技術の階級性格、日根荘開発と勸進集団の動向、天皇と民衆、加地子得分の形成と一色田の動向、中世村落寺院と置文、内乱と村落、惣村の起源と役割、中世後期村落の経済生活、特権商人の動向など、主に畿内地域の民衆生活に関する諸論稿を収録。地域社会に根をおろした中世民衆史をめざす一書。(初版1981年)
▶A5判・448頁／本体9,000円 ISBN978-4-7842-7027-9

中世京都の都市と宗教 オンデマンド版

河内将芳著
これまで「町衆」の祭礼としてイメージされてきた中世の祇園会(祇園祭)や、「町衆」の信仰とされてきた法華信仰・法華宗など、都市社会と宗教・信仰との関係について、山門延暦寺に関する研究成果や中近世移行期統一権力の宗教政策論に即してとらえ直すことにより、その実態をあらためて問い直す。(初版2006年)
▶A5判・424頁／本体6,800円 ISBN978-4-7842-7006-4

日本中世の環境と村落

橋本道範著
第一部では、中世琵琶湖漁撈と首都京都での消費という問題を中心に、中世村落にとっての「水辺」における漁撈の歴史的意義を問い、第二部では、他地域の検討もふまえて、一三世紀を画期として、小さなムラが精緻な地域資源利用の主導権を握るとする「生業の稠密化」論を提起し、従来の集約化論や集村化論を止揚する。
▶A5判・444頁／本体8,400円 ISBN978-4-7842-1764-9

日本中世の地域社会と仏教

湯之上隆著
写経や法会、開板事業、偽文書など様々な事象を通して、個人や集団の宗教行為がいかなる社会性を持ったのか、中世の地域社会における、仏教と社会との関係性を明かす。静岡県を中心とした地域の寺社文書の詳細紹介、紀行文から見る地域社会など、「宗教」と「地域社会」をキーワードとして社会を概観する。
▶A5判・384頁／本体8,000円 ISBN978-4-7842-1773-1

日本中世の領主一揆

呉座勇一著
南北朝内乱以降、中世は本格的に「一揆の時代」を迎え、多種多様な一揆の中でも、最初に時代を牽引したのは年貢公事の徴収者にして地域社会の治安維持者であった在地領主による一揆、つまり〈領主の一揆〉であった。本書は今までの研究蓄積の上に、〈領主の一揆〉の構造・機能・結合論を解明し、新しい国人一揆論を提示する。
▶A5判・380頁／本体7,200円 ISBN978-4-7842-1721-2

京都文化の伝播と地域社会

源城政好著 思文閣史学叢書
京都とその近郊の中世文化史に取り組んできた著者が、今までの成果をまとめた一書。在地(荘園)をめぐる動向、公武の文芸交流と伝播、さらに河原者・声聞師の被差別民衆の諸相と室町・戦国期の人物論を収めた。
▶A5判・400頁／本体7,800円 ISBN4-7842-1325-2

中世都市「府中」の展開

小川信著 思文閣史学叢書
中世以来、古代国府の後身とも言うべき国々の中心となる領域は、国府(こう)と呼ばれるほか、しばしば府中と呼ばれる。研究が進んでいる古代国府と戦国以降の城下町にくらべ、両者の中間の時代にある中世府中は、意外と見逃されていた。詳細な個別研究を集成し、中世都市としての諸国府中の全体像を明らかにする。
▶A5判・576頁／本体11,000円 ISBN4-7842-1058-X

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。